

今夏、北海道では観測史上初というか超記録的な暑さとなりました。37度前後まで達し、信じられません。過日、国連が「もはや地球温暖化ではなく地球沸騰化」という表現を使い、異常気象に強い懸念を示していましたが、北海道の暑さもその一つなのでしょう。

”日常”を取り戻した夏休み、生徒は学校での補習、クラブ活動や家族旅行などにと充実した時間を過ごせたのではないかと思います。特に受験生の高校3年生は、有効に時間活用ができたと思うのですが、どうだったでしょうか。

さて、2学期に向けて心身ともにスイッチを”オン”の状態にしなければなりません。8月28日、始業式の中で伝えたのは、「8つのマインドセット」として伝えている中の一つ、「いい準備をしよう」についてでした。以下、始業式での講話(中略)です。



(始業式に臨む、高校3年生の生徒たち)

## いい準備をしよう

みなさん、おはようございます。今日から2学期が始まります。心身ともにスイッチは切り替えられていますか？ ニュース等で知っていると思いますが、北海道は記録的な暑さに見舞われています。例年、20度後半の気温で過ごせる北海道の気候なので、学校にはエアコン設備などありません。お盆明けには2学期が始まったものの、35~37度という気温となり、登校は避けて”オンライン授業”で対応している学校もあったとのことでした。広島も残念ですがもう少し暑い日が続くという天気予報です。十分に気をつけて過ごしましょう。

さて、何かを始めようとするときに大切になるのは、さまざまな準備です。しかも、「いい準備」が求められます。このことは1学期終業式で話した「8つのマインドセット」の中の一つでもあります。この準備をすることの大切さについてですが、よく知られた「備えあれば憂いなし」という慣用句(諺)は誰でも知っているはずですが、「前もって準備をしておけば、いざというときに何事が起きても心配ない」という意味ですよね。他に準備することの大切さについて、手元にある本やインターネット検索をしてみると、著名人の言葉を見つかることができました。

「準備というのは、言い訳の材料となり得るものを排除していく、そのために考え得るすべてのことをこなしていく」。これは元大リーガー・イチローの言葉です。準備をしておけば、試合が終わった時に後悔することがないのではないかと、という意味として言われた言葉なそうです。

「勝負を決めるのは準備。なかでも気持ちの準備以上のものはないと思う」。これは元サッカー日本代表の本田圭佑の言葉です。常に気持ちでひるまない、気迫あふれるプレーを心がけた本田圭佑らしい言葉だと思います。

「川や海に魚が群れをなしてくることがあるが、機会が訪れるのもそれと同じだ。それっ、魚が集まった、といって網をつくろうとするのでは間に合わぬ。いつ魚が来ても、すぐに捕まえられるように、不断に準備をしていて、その場になってまごつかぬようにしておかなければならぬ」。これは三菱財閥創始者・岩崎弥太郎の言葉です。明治維新において、坂本竜馬、渋沢栄一などと共に非常に重要な役割を担った経済人の一人です。

最後に、「偶然是準備をできていない人を助けない」。これはフランスの細菌学者、ルイ・パスツールの言葉です。実に含蓄のある言葉ですが、どういうふうに解釈したらいいのでしょうか。私たちの日常というのは、小さな偶然の積み重ねの連続によって構成されていますが、時折、「え、すごいね！」と目を見張るような人に出会います。恐らくその人は、日常の偶然の出来事にチャンスを見出した人ではないかと察します。日常生活の中で目的意識を欠かさずに過ごし、創意工夫を心がけて行動している人だからこそ突然訪れた偶然而をチャンスに、成長に導くことができたのではないかと思います。そのように解釈しました。

さあ、どうでしょうか。何かに挑戦するときできるだけ後悔しないようにするためには準備が欠かせない。また、準備というのは物理的な側面だけではなく、精神的な側面、気持ちの準備が何と言っても欠かせないということ。そして、岩崎弥太郎、ルイ・パスツールの言葉に見るように、不断の準備を心がけること、目的意識のある日常を過ごすことが大切だということをおぼえてもらえたでしょうか。

今日から2学期。「いい準備をしよう」というマインドセット(心構え)、とくに高校3年生のみなさんにとっては”そのとき”です。悔いの残らないように、準備に専念しましょう。